

宇宙にあるルーレット

町田第二中学校 一年 高木 結菜

それは良くも悪くも地球に影響が出るルーレットのこと。その名前の通り、宇宙にある。地球からは毎日一人が地球にあるルーレットで選ばれて、その人が宇宙服をつけてまわしにいく。このルーレットは、一日一回しかまわすことはできない。このルーレットのよいところは、地球に良い影響を与えてくれることだ。例えば、きれいな水が飲めない子どもたちにきれいな水一生分を配つたり、戦争をしている国があれば戦争を終わらせてくれたり。いいこと尽くしのルーレットだが、悪いことも多い。地震や火事などの災害が二つ同時に起つたり、全世界で一日中電気が使えなくなつたり、さらには、まだ引いたものはいないが、隕石が落ちてくることもある。

このルーレットが近年、社会問題になつてゐる。なぜならこのルーレットで悪いことを引いてしまつた人たちがSNSなどでせめられて、その人が病んでしまうからだ。あるとき、

「ルーレットを壊してしまえばいいのでは？」

という意見がでてきた。最初は反対の意見が多かつたが、次から次へと賛成する人がでてきて、意見がでてきた数週間後には、賛成派が反対派よりも多くなつていつた。そして、国連でも議論された。反対派はもう少数になつていて、ほとんどの国がルーレットをこわすことには賛成した。そして、正式にルーレットがこわされることが決定した。反対派は、最後の抵抗として、デモをおこなつた。だが、賛成派の軍によつて、反対派は一掃された。そして、地球にあるルーレットで決められた女性が宇宙にあるルーレットをこわしに向かつた。そしてついに、二〇XX年、七月五日、ルーレットがこわされた。ルーレットはこんなごなになつて、宇宙の彼方へ飛んでいつた。ルーレットをこわしたことで、何か起つるのではないかと人類はおそれていたが、特に何も起つらなかつた。人類は安堵した。地上にあつたルーレットも同時期にこわされた。

それから数ヶ月後のある日、突然戦争が始まつた。でも、彼らに危機感は感じられなかつた。なぜなら、戦争はすぐ終わると思っていたからだ。長い戦争を経験していない彼らは戦争はすぐ終わると信じていたのだ。しかし、さらに数ヶ月後、戦争はまだ続いている。人類は今まで経験したことない長い戦争に混乱した。そしてあるとき、一人の男性がこういつた。

「今まで戦争が短かったのは、ルーレットのおかげだったのでは？」

この意見を聞いた人類は共感しSNSでこわした女性を批判した。自分たちをたなあげて。結局、その女性は病んでしまった。

人類は、ルーレットをこわしたことの後悔し、こわした人をせめたてた。何度も、ルーレットをつくれないかと言う意見が出たが、なぜかつくろうとしてもつくれない。つくれうとした当日に、材料が盗まれていたり、つくる予定の工場が急に倒産したりした。人類は、ルーレットは神の化身だったとか、紙の化身をこわしたからばちがあたるなどSNSでさわぎまくった。

実際、ルーレットは神の化身などではなく、宇宙に自然生成されるものだが、一度こわすと二度とつくれなくなってしまう。つまり、人類の自業自得である。確かに、災害などの被害は大きくなるが、戦争を終わらせるることはそれよりも規模の大きい、すごいことだったのだ。それに人類は気づかなかつた。いや、気づくのがおそすぎた。まるで戦争が早く終わることが当たり前ということになつていてから気づくのがおそくなつてしまつたのだ。

この世界では、まだ戦争が続いている。目の前にある大切な人に気づかず、自らこわしてしまつた故に。

教育長賞

高木結菜「宇宙にあるルーレット」

審査員講評 ****

「人は、目の前の大切な目に気づかずにこわしてしまう」というラストのメッセージが、ルーレットのこと限らず様々なことに掛けられているように思われ、深みを感じました。ルーレットで悪いことを引いてしまったらSNSでせめられて病むという描写も、現代的でうなられます。ルーレットが宇宙に自然生成されるという設定も、じつに魅力的でした。

—— 田丸 雅智